

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成23年2月24日 (2011.2.24)

【公表番号】特表2009-504190(P2009-504190A)

【公表日】平成21年2月5日 (2009.2.5)

【年通号数】公開・登録公報2009-005

【出願番号】特願2008-527139(P2008-527139)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 31/713 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/20 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 27/16 (2006.01)

A 6 1 P 3/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/18 (2006.01)

A 6 1 P 3/06 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 3/04 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

A 6 1 P 15/08 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 19/06 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/12 (2006.01)

A 6 1 K 31/712 (2006.01)

A 6 1 K 31/7125 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/713

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/06

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 31/20

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 1/16
 A 6 1 P 27/16
 A 6 1 P 3/00
 A 6 1 P 1/18
 A 6 1 P 3/06
 A 6 1 P 3/10
 A 6 1 P 3/04
 A 6 1 P 13/12
 A 6 1 P 15/08
 A 6 1 P 19/02
 A 6 1 P 19/06
 A 6 1 P 9/00
 A 6 1 P 9/10
 A 6 1 P 9/12
 A 6 1 K 31/712
 A 6 1 K 31/7125

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月28日(2010.12.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

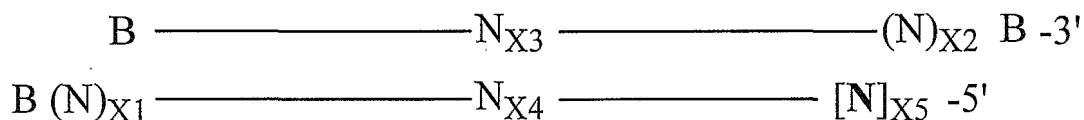
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

センス鎖とアンチセンス鎖を含む構造 S X I I を有する二本鎖核酸分子：

【化 1】



SXII

[ここで、二本鎖核酸分子の上側の鎖はセンス鎖であり、下側の鎖はアンチセンス鎖であり、前記アンチセンス鎖は、標的RNAに相補的である配列を含み、各Nは独立にヌクレオチドであり、各Bは存在しても、しなくても良い末端キャップ部分であり、(N)は、無修飾でも、化学修飾されていても良い、非塩基対形成ヌクレオチド又はオーバーハングヌクレオチドであり、[N]はリボヌクレオチドであるヌクレオチド位置であり、X1及びX2は独立に約0～約4の整数であり、X3は約9～約30の整数であり、X4は約11～約30の整数であって、但しX4とX5の合計は約17～36であり、X5は約1～約6の整数であり、ならびに

(a) アンチセンス鎖中に存在する任意のピリミジンNヌクレオチドは2'-デオキシ-2'-フルオロヌクレオチドであり、アンチセンス鎖中に存在する任意のプリンNヌクレオチドは2'-O-メチルヌクレオチドであり、

(b) センス鎖中に存在する任意のピリミジンNヌクレオチドは2'-デオキシ-2'-フルオロヌクレオチドであり、センス鎖中に存在する任意のプリンNヌクレオチドはデオキシリボヌクレオチドであり、および

(c) 任意の(N)ヌクレオチドは、2'-O-メチル、2'-デオキシ-2'-フル

オロ又はデオキシリボヌクレオチドであっても良い】。

【請求項 2】

X 5 = 1、2 又は 3 ; 各 X 1 及び X 2 = 1 又は 2 ; X 3 = 1 2、1 3、1 4、1 5、1 6、1 7、1 8、1 9、2 0、2 1、2 2、2 3、2 4、2 5、2 6、2 7、2 8、2 9 又は 3 0、並びに X 4 = 1 5、1 6、1 7、1 8、1 9、2 0、2 1、2 2、2 3、2 4、2 5、2 6、2 7、2 8、2 9 又は 3 0 である、請求項 1 に記載の二本鎖核酸分子。

【請求項 3】

B が、センス鎖の 3 ' 及び 5 ' 末端に存在する、請求項 1 に記載の二本鎖核酸分子。

【請求項 4】

s i N A 分子のセンス鎖、アンチセンス鎖又はセンス鎖とアンチセンス鎖の両方の 3 ' 末端上の第 1 の末端 (N) における 1 個以上のホスホロチオアートヌクレオチド間結合を含む、請求項 1 に記載の二本鎖核酸分子。

【請求項 5】

薬剤として許容される担体又は希釈剤中に請求項に記載 1 の二本鎖核酸分子を含む、組成物。